

GZ2700T /GZ2800T

シンボルマークの意味

チェンソーに表記されるシンボルマーク:

警告!チェンソーには危険がつきものです。不注意な取り扱いや誤った取り扱いは作業業者や周囲の人などに深刻な、時には致命的な傷害を引き起こすことがあります。



本機をご使用になる前に、この取扱説明書を注意深く読みいただき、内容を必ずご確認ください。



常に下記のを着用してください。

- ヘルメット(保安規格適合品)
- 耳栓またはイヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー等「(使用者の身体保護具)」をお読みください。



足や脚および手や腕用の適切な保護具を使用してください。



このチェンソーは、木の剪定作業に関する訓練を特別に受けている人のみ使用するようになっています。取扱説明書を必ずお読みください。



警告!キックバックとは、ソーチェーンが高速回転中にガイドバーの先端部が付近のものに触れた際に、反作用で機体が跳ね返される現象です。重大な障害事故につながります。「キックバックの避け方」をお読みください。



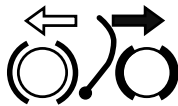
作業者は、必ず両手でチェンソーを使用する必要があります。チェンソーを片手だけで操作することは厳禁です。



高温部注意



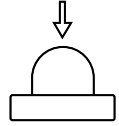
チェンブレーキ作動(右)、
チェンブレーキ解除(左)



エンジンスイッチを矢印の向きに操作することで、エンジンが停止します。



始動ポンプ



混合ガソリンの給油口



オイルポンプの調整



チェンオイルの給油口



チョーク開
暖時始動及び通常作業



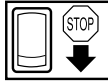
チョーク閉
冷時始動



シンボルマークの意味

取扱説明書に表記される シンボルマーク:

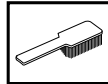
点検やメンテナンスを行うときは、エンジンを切ってください。



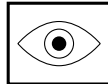
常に保護手袋を着用してください。



定期的な清掃が必要です。



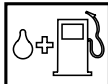
目視点検



保護メガネまたはバイザーを必ず着用してください。



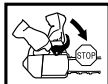
給油



チェーンオイル補充と流量調節



チェーンソーを始動する際は、必ずチェーンブレーキをかけてください。



目次

シンボルマークの意味

チェンソーに表記されるシンボルマーク.....	2
取扱説明書に表記されるシンボルマーク.....	3

目次

目次	4
はじめに	
お客様へ.....	5
サービスと保証について.....	5
各部名称	
チェンソーの各部名称.....	6
標準付属工具.....	6

安全な使用について

新しいチェンソーをお使いになる前に.....	7
重要.....	7
いつも常識ある取り扱いを.....	7
使用者の身体保護具	8
製品の安全装置	8
カッティング装置	12

組み立て

ガイドバーとチェンの取り付け.....	18
燃料の取り扱い	
燃料	19
給油.....	20
燃料の安全について	20
始動と停止	
始動と停止.....	21
作業技術	
安全に関する基本事項.....	24
一般的な作業方法	24
キックバックの避け方	27

メンテナンス

全般.....	28
キャブレターの調整.....	28
チェンソーの安全装置の点検, メンテナンス, サービス.....	29
チェンブレイキとフロントハンドガード	29
スロットルトリガーロック	30
振動軽減システム.....	30
ストップスイッチ	31
マフラー.....	31
スターター.....	31

エアフィルター	32
スパークプラグ	33
オイルポンプの調整	33
トラブルシューティング.....	34
メンテナンスのスケジュール.....	35

主要諸元

主要諸元	36
ガイドバーとの組み合わせ.....	37
チェンソーの目立てとファイルゲージ	37
振動障害の防止	37

はじめに

お客様へ

このたびはゼノア製品をお買い上げいただき誠にありがとうございました。
この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

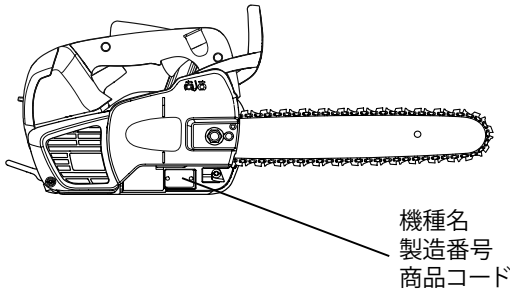
ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買い上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあった時には取り出してお読みください。
なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

サービスと保証について

ご相談窓口

本製品に関するお問い合わせや消耗品のお求め、サービスのご利用は、お買い上げいただいた販売店で承ります。
お問い合わせの際は型式名と製造番号(下図参照)をご連絡ください。
製品・技術・その他に関してお気付きの点やご意見等ありましたらお気軽に弊社営業窓口(裏表紙記載)にお寄せください。



保証書について

本製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ日・型式名・製造番号」の記入押印をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき、内容を良くお読みのと大切に保管してください。

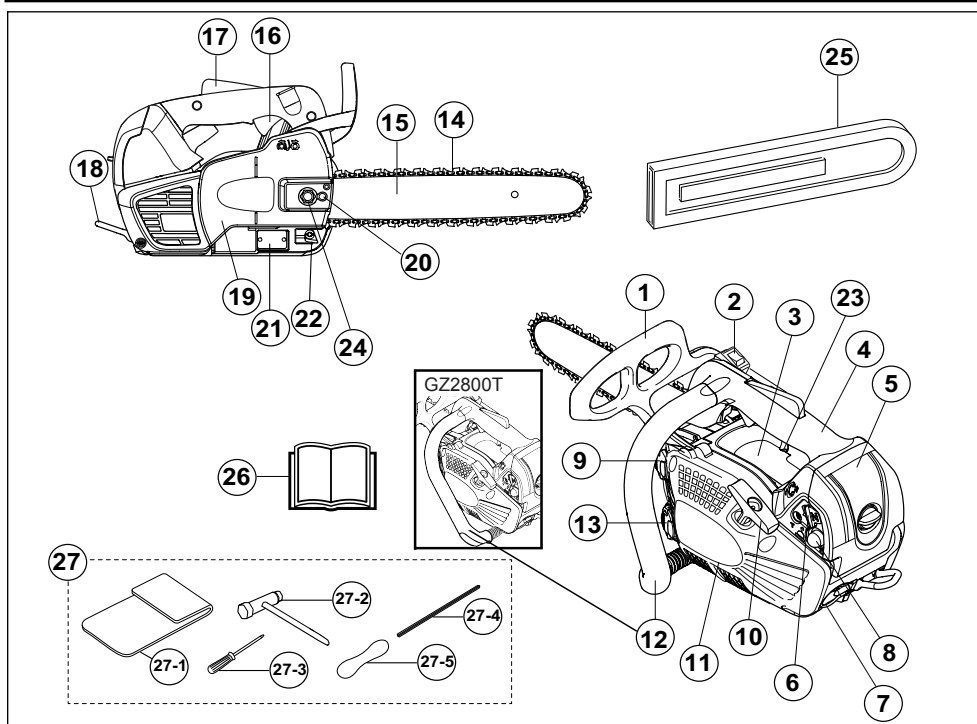
補給部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は製造打切後8年です。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのをご注意ください。

各部名称



チェーンソーの各部名称

- 1 フロントハンドガード
- 2 ストップスイッチ
- 3 情報と警告ラベル
- 4 トップハンドル
- 5 エアフィルターカバー
- 6 チョークコントロール
- 7 ロープアイレット
- 8 始動ポンプ
- 9 燃料タンク
- 10 スターターハンドル
- 11 スターター
- 12 フロントハンドル
- 13 チェンオイルタンク

- 14 ソーチェン
- 15 ガイドバー
- 16 スロットルトリガー
- 17 スロットルトリガーロック
- 18 ベルトアイレット
- 19 クラッチカバー
- 20 チェン張り調整ネジ
- 21 シリアルプレート
- 22 チェンキャッチャー
- 23 オイルポンプ調整ネジ
- 24 バーナット
- 25 ガイドバーカバー
- 26 取扱説明書
- 27 ツールキット

標準付属品

図番号	部品番号	品名	数量
26	114035679	取扱説明書*	1
27	595076701	ツールキット	1
27-1	334591110	バッグ	1
27-2	587243501	ブラグレンチ	1
27-3	267091150	ドライバ	1
27-4	338191510	ファイル	1
27-5	338191530	グリップ	1

* 保証書が挟み込まれています。

安全な使用について

新しいチェーンソーをお使いになる前に

- 取扱説明書をよくお読みください。
- ガイドバーとチェーンが正しく装着・調整されていることを確認してください。「組み立て」を参照してください。
- 燃料補給をしてからチェーンソーを始動してください。「燃料の取り扱い」および「始動と停止」の項を参照してください。
- チェーンオイルがチェーンに十分な皮膜を作るまで、チェーンソーを使わないでください。「ガイドバーとチェーンの潤滑」を参照してください。
- 長時間騒音にさらされることは、恒久的な聴覚障害の原因になることがあります。本機を使用する際は、認可されているイヤマフを必ず着用してください。



警告!
いかなる理由であれ、製造者の承認を得ることなく製品の設計に変更を加えないでください。常に純正の部品をお使いください。不認可の設計変更や付属品は、使用者やその他の人の重傷や致命傷の原因となることがあります。

不注意な取り扱いや誤った取り扱いをすると、チェーンソーは危険な道具となり、重傷や時には致命傷の原因となります。本取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解することが非常に重要です。

密室や換気の悪い場所でエンジンをかけると窒息死や一酸化炭素中毒の原因となることがあります。

エンジンの排気ガスやチェーンオイルのミスト、切りくずの粉塵などを長期間にわたって吸い出すと、健康を害する原因となることがあります。

本機は、運転中に電磁場を生成します。この電磁場は、場合によって能動あるいは受動的な医療用インプラントに影響を及ぼすことがあります。深刻なまたは致命傷の危険を避けるため、医療用インプラントを使用している人が本機を操作する前に、主治医およびペースメーカーの製造元に相談することをお奨めします。

ガイドバーとチェーンに欠陥があったりガイドバーとチェーンソーの組み合わせが誤っていると、キックバックの危険性が高くなります。当社の推奨するガイドバーとチェーンの組み合わせのみを使用し、ヤスリのかけ方の指示に従ってください。詳細は、「主要諸元」を参照してください。



高温によるやけどの恐れがありますので、エンジン運転中および停止後エンジンが冷えるまでは、マフラ、シリンダカバー、シリンダ、クランクケース、クラッチ、クラッチドラム、ガイドバー、ソーチェーン、スパークプラグなどの高温部に触れないでください。



エンジン運転中はスパークプラグやコードに触れないでください。電気ショックを受ける恐れがあります。

重要

重要!

本製品は木材の切断を用途として設計されています。不測の事故を招く恐れがありますので、本来の用途以外の目的（特に石やコンクリート、金属などの切断）には使用しないでください。

剪定用チェーンソーは、立ち木の樹冠の枝払いができるように開発されています。

主要諸元の項目で推奨するバーとチェーンの組み合わせのチェーンソーのみをご使用ください。

疲労時や飲酒後、視野・判断力・動作に影響を及ぼすような医薬品を服用したときは絶対に本機を使用してはいけません。

また、本書の内容が理解できない人、妊娠している人や子供には絶対に使わせないでください。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

本製品を改造したり、改造の疑いがある製品を使用しないでください。

本機に欠陥がある場合は絶対に使用しないでください。本取扱説明書の内容に従って、点検、メンテナンス、サービスを行ってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、訓練を受け、資格のある専門家でなければできないものもあります。詳細は、「メンテナンス」を参照してください。

本書指定の付属品以外の部品を使用しないでください。詳細は「ガイドバーとチェーン」、「主要諸元」を参照してください。

常に保護メガネあるいはバイザーを着用し、飛び散る物体による損傷を防いでください。チェーンソーは大きな力で木屑、木片などを飛ばすことがあります。これにより重傷を負うことがあります。特に目のケガの原因になることがあります。

この取扱説明書は必ず保管して、分らないことがあった場合など必要に応じてご参照ください。本機を小さいお子様の手の届くところに保管しないでください。

本製品を譲渡または貸与する際は、この取扱説明書を必ず添付してください。

いつも常識のある取り扱いを

チェーンソーをご使用の際に起こりえる状況をすべて説明することは不可能です。常に注意を払い、常識に合った使用方法で操作してください。技能的に難しいと思える状況で、無理な操作を行わないでください。これらの注意事項を読んだ後でも、操作手順等について不明点がある場合は、専門技術者に相談することをお奨めします。

安全な使用について

チェーンソーの使用方法についてご質問があるときは、お気軽に代理店または弊社までご連絡ください。お持ちのチェーンソーを効率良くまた安全に使用方法やアドバイスを提供いたします。



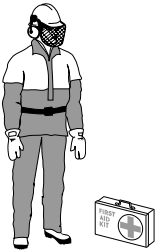
弊社では、皆様の安全と作業の効率性を向上させるため、常に設計や技術の改善に力を入れています。定期的に代理店に訪れるなどして、役立つ新機能などを確認してください。

使用者の身体保護具



警告!チェーンソー事故の大半は、チェーンが使用者に当たった際に発生します。本機を使用する際は、承認を受けた身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具を選ぶ場合は、販売店にご相談ください。

注意!決してチェーンソーを片手で握らないでください。片手ではチェーンソーのコントロールが十分にできません。体を傷つけることがあります。常に、ハンドルを両手でしっかりと握ってください。



常に次のものを着用してください。

- ヘルメット(保安規格適合品)
- 耳栓またはイヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー
- チェーンソー用防護手袋
- チェーンソー用防護ズボン
- 腕用の適切な保護具
- チェーンソー用防護靴(滑りにくい靴, 先芯入り)

また、次の用品を携行してください。

- 適切な容器に入れた燃料及びチェーンオイル
 - クサビ、ロープ
 - 呼笛(共同作業時や非常時の合図用)
 - なた、手こ(障害物除去用)
- 事故や怪我に備えて、次の用具を携行してください。

- 救急箱
- 止血道具(タオル・手ぬぐい等)

重要事項!マフラー、バーとチェーンまたは他の箇所から火花が発生することがあります。常に消火器を備え、必要ときに使えるようにしてください。森林火災の防止にご協力ください。

このトップハンドルチェーンソーは、木の剪定用に特別に設計されたチェーンソーです。コンパクトなハンドル設計(間隔を狭くしたハンドル)のため、コントロールを失う危険が大きくなっています。そのため、これらの専用チェーンソーは、切断作業について特別なトレーニングを受け、適切な装備(リフトバケット、ロープ、安全ハーネス)で体の安定を確保した作業者だけが使用することができます。地上で行う他の切断作業には、標準のチェーンソー(ハンドルの間隔が広いチェーンソー)を推奨します。



警告!木の剪定作業は、ケガの危険を防ぐため、特別の切断技術を必要とします。ハーネス、ロープ、ベルト、クライミングアイアン、スナップフック、カラビナなど、安全装備や昇降装備の使用などを含め、剪定作業に関する専門的なトレーニングを受けていない限り、木の剪定作業を行ってはいけません。

製品の安全装置

この項目では、本機の安全装置とその機能について説明します。詳細は、「チェーンソーの安全装置の点検、メンテナンス、サービス」を参照してください。お手持ちのチェーンソーの部品の位置については、「各部名称」を参照してください。

本機のメンテナンスを適切に行わなかったり、メンテナンス・修理を専門技術者に依頼しなかったりすると、機械の寿命を縮め、事故発生危険性が増します。詳しくは、お近くの販売代理店にお問い合わせください。

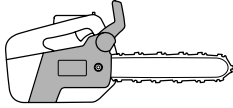


警告!安全装置に欠陥のあるチェーンソーは決して使用しないでください。安全装置は必ず点検しメンテナンスを行ってください。詳細は、「安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。チェーンソーが点検項目すべてに合格しない場合、チェーンソーを販売代理店にお持ちいただき、修理をご依頼ください。

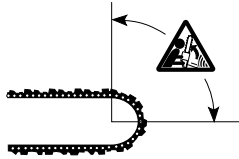
安全な使用について

チェンブレイキとフロントハンドガード

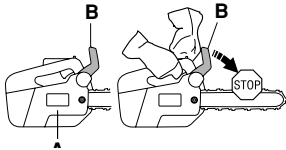
このチェンソーにはチェンブレイキが備わっており、キックバックが発生した場合、直ちにチェンを停止します。チェンブレイキは事故発生の危険性を軽減しますが、何よりも大切なのは慎重な取り扱いです。



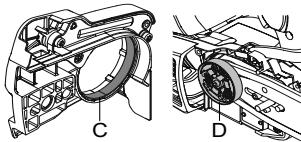
チェンソーをご使用の際は、ガイドバーのキックバックゾーンが他の物に触れることのないよう、注意してください。



- チェンブレイキ (A) は、手動式 (左手を使う) とイナーシャ機構による自動式のどちらかで作動することができます。
- チェンブレイキは、フロントハンドガード (B) が前へ倒れるとかがかります。

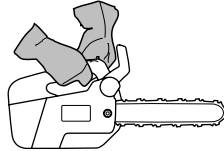


- この動きにバネを使用したメカニズムが反応し、エンジン駆動装置 (クラッチドラム) (D) 周囲のブレイキバンド (C) が締まります。

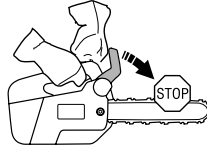


- フロントハンドガードは、チェンブレイキをかけるためだけのものではありません。フロントハンドルを持つ左

手が滑ったときに、手がチェンに当たるのを防ぐという重要な役割もあります。



- チェンソーを始動する際は、チェンの回転を防ぐため、必ずチェンブレイキをかけてください。

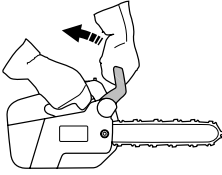


- チェンソーを始動するときや、短い距離を移動するとき、チェンを誤って作動させてご自身の足や周囲の人、物体にぶつけてしまう危険性を減少させるためにチェンブレイキを「パーキングブレイキ」として使用してください。

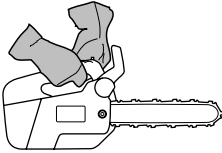


安全な使用について

- チェンブレイキを解除するにはフロントハンドガードを後ろへ、つまりフロントハンドルの方へ引きます。



- キックバックは突然強い力で起こることがあります。キックバックのほとんどは弱いため、常にチェンブレイキが自動的に作動するとは限りません。このような場合はチェーンソーをしっかり握り、コントロールを失わないようにしてください。

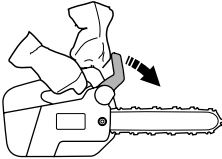


- チェンブレイキの作動が手動式によるものかイナーシャ自動式によるものかは、キックバックの強さと、ガイドバーのキックバックゾーンに触れた物とチェーンソーとの位置関係によって左右されます。

キックバックゾーンが身体から最も離れた位置にあるときに、強い力のキックバックが起こった場合、チェンブレイキはキックバックの方向におけるカウンターウェイト（イナーシャ式）の働きで作動します。



キックバックが比較的に弱い場合やガイドバーのキックバックゾーンが身体から近い位置にあるときは、左手による操作でチェンブレイキをかけてください。



- 伐倒ポジションでは左手をチェンブレイキが手動で作動できない位置に置くこととなります。このような左手の握り方によりフロントハンドガードを操作できない

場合は、イナーシャ機構の作動によってのみチェンブレイキがかかることとなります。



キックバックが起こると常に手でチェンブレイキを作動できますか？

いいえ。ハンドガードを前方に動かすにはある程度の力が必要とします。フロントガードに軽く触れたり、手が滑ったくらいではチェンブレイキがかからない場合があります。作業を行うときは、チェーンソーのハンドルをしっかり握って操作してください。キックバックを体験すると、手はフロントハンドルから離れず、チェンブレイキを作動させることができなくなります。また、チェーンソーがかなり離れた場所に揺れ動くまでチェンブレイキがかからないことがあります。このとき、チェンブレイキによってチェーンの回転が止まる前に、使用者にチェーンがぶつかることがあります。

フロントハンドガードに手が届かず、チェンブレイキを作動できない姿勢をとることもあります。例えば、チェーンソーを伐倒ポジションで抱える場合などです。

キックバックが起こるとイナーシャは常にチェンブレイキに作動しますか？

いいえ。まず、ブレイキは正常に作動していなければなりません。次に、キックバックは十分強くないとチェンブレイキは作動しません。チェンブレイキの感度が高すぎると、常に作動することになり作業の障害となります。

チェンブレイキが作動すると、キックバックが起こったときに使用者は絶対に怪我を防ぐことができますか？

いいえ。保護機能を作動させるには、まず、チェンブレイキは正常に機能することを確認してください。二番目にチェーンの作動を停止するには上記のようにキックバック中に作動させる必要があります。三番目にチェンブレイキは、作動させることができてもガイドバーが使用者に近すぎてチェーンの回転速度を落としたり、停止させるまでに時間がかかりチェーンソーが使用者を打撃することがあります。

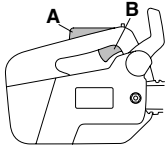
使用者が正しい操作方法で使用する場合にのみキックバックとその危険性を防ぐことができます。

スロットルトリガーロック

スロットルトリガーロックはスロットルトリガーの操作ミスを防ぐためのものです。スロットルトリガーロック (A) を押える (ハンドルを握る) とスロットルトリガー (B) が開放されます。ハンドルから手を放すと、スロットルトリガーとスロットルトリガーロックはともに元の位置に戻ります。

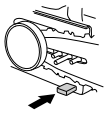
安全な使用について

この構造はつまり、アイドルリングではスロットルトリガーが自動的にロックされることを意味します。



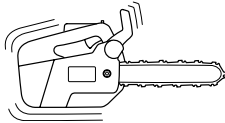
チェンキャッチャー

チェンキャッチャーは、チェンが破断したり外れたりしたときに受け止める役割をします。ただし、チェンの張り具合が適正で(「組み立て」参照)、ガイドバーとチェンの保守サービスが正しく行われている場合(「一般的な作業方法」参照)、チェンが破断したり外れたりすることはありません。

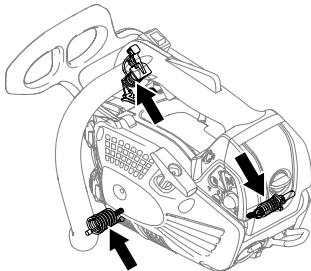


振動軽減システム

本機には振動軽減システムがついており、振動をやわらげ操作しやすいようになっています。

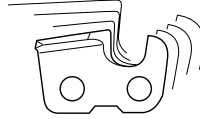


本機の振動軽減システムは、エンジンユニットや切断装置とハンドル間での振動の伝播を軽減します。チェーンソー本体とチェン部に振動軽減ユニットを取り付け、ハンドルを振動から守っています。



また、硬木(広葉樹のほとんど)は軟木(針葉樹のほとんど)

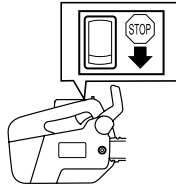
より振動が激しくなります。刃先が丸くなっていたりチェンに不具合(不適なタイプや目立てが悪いなど)がある場合も、振動がさらに大きくなります。



警告!循環器系に障害のある人が振動を長期間受け続けると、循環器障害や神経障害を起すことがあります。振動が原因と思われる症状が出たときは、医師に相談してください。症状にはしびれ、感覚まひ、うずき、ちくちくする痛み、刺すような痛み、力が入らない、皮膚の色の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。この症状は低温の環境下でよく起ります。

ストップスイッチ

ストップスイッチはエンジンを切るときに使用します。



マフラー

マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、直接的な排気ガスから使用者を護る働きをします。

気候が高温・乾燥の地域では、火事の危険性が高くなります。



警告!エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となることがあります。屋内や可燃物のそばでは、決して本機を始動しないでください!

注意!マフラーは、使用中および使用直後ともに非常に熱くなります。このことはアイドルリング中にも該当します。

安全な使用について



警告!マフラー無しチェーンのあるマフラーを装着したチェーンは決して使用しないでください。マフラーに損傷があると騒音レベルや火災の危険性が高くなります。消火装置をお手元に装備してください。

カッティング装置

この章では、下記の点を達成するためのガイドバーとチェーンの選び方、手入れの方法について説明しています。

- キックバックの危険性を低減する。
- ソーチェーンが破断したリバーから外れたりする危険性を低減する。
- 適切な鋸断性能を引き出す。
- ガイドバーとチェーンの耐用年数を延ばす。
- 振動レベルの上昇を避ける。

一般的な注意事項

- **弊社指定のガイドバーとチェーンのみをお使いください!** 詳細は、「主要諸元」を参照してください。



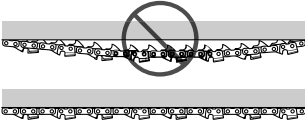
- **チェーンの目立てを正しく行ってください。** 指示に従い、指定のファイルゲージをご使用ください。損傷があるチェーンや目立ての悪いチェーンは、事故の危険性を高めます。



- **正しいデプスゲージの設定を保持してください。** 指示に従い、推奨されているデプスゲージの間隔を使用してください。デプスが大きすぎると、キックバックの危険性が高くなります。



- **チェーンの張りを適正に保ってください!** チェーンにたるみがあると外れやすくなり、ガイドバーやチェーン自体、またドライブsprocketの摩耗が進行する原因となります。



- **ガイドバーやチェーンの潤滑状態を良好に保ち、正しいメンテナンスを行ってください!** 潤滑状態の悪いチェーンは破断しやすく、ガイドバーやチェーン自体、ドライブsprocketの摩耗が進行する原因となります。



キックバックを最小限に抑えるガイドバーとチェーン



警告!ガイドバーとチェーンに欠陥があったりガイドバーとチェーンの組み合わせが誤っていると、キックバックの危険性が高くなります。当社の推奨するガイドバーとチェーンの組み合わせのみを使用し、ヤスリのかけ方の指示に従ってください。詳細は、「主要諸元」を参照してください。

キックバックを避ける唯一の方法は、ガイドバーのキックバックゾーンに物が触れないようにすることです。

低キックバック設計のガイドバーとチェーンを使用したり、チェーンの目立てを急らず行き届いた手入れをすることで、キックバック現象を軽減することができます。

ガイドバー

先端の半径が小さいほどキックバックが起こる確率が減ります。

チェーン

チェーンは多数のリンクで構成されています。リンクの種類には標準タイプと低キックバックタイプとがあります。

重要事項!チェーンには、どのような設計であっても、キックバックの危険性が潜在しています。



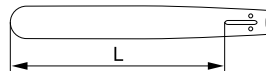
警告!回転しているチェーンに触れると重傷を負う原因になります。

ガイドバーとチェーンについて

本機の安全機能を維持するために、摩耗や損傷のあるガイドバーまたはチェーンは、弊社が推奨するガイドバーとチェーンの組み合わせで交換してください。弊社が推奨する交換用ガイドバーとチェーンの組み合わせについては、「主要諸元」を参照してください。

ガイドバー

- 長さ (インチ/cm)

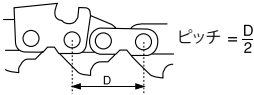


- ノーズsprocketの歯の数 (T)

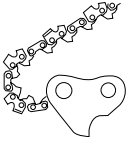


安全な使用について

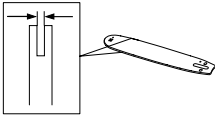
- チェンピッチ(インチ)
チェンのドライプリンク同士の間隔と、ノーズスプロケットの歯とドライブスプロケット間の間隔とが一致するようにしてください。



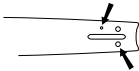
- ドライプリンクの数
ドライプリンクの数、ガイドバーの長さ、チェンピッチ、およびノーズスプロケットの歯の数によって決まります。



- ガイドバーのレール溝幅(インチ/mm)
レール溝の幅は、チェンのドライプリンクの幅と一致するようにしてください。

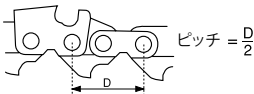


- ガイドバーはチェンソーのマウントの種類に合ったものを使用してください。

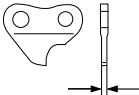


チェン

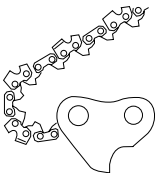
- チェンピッチ(インチ)



- ドライプリンクの幅(mm/インチ)



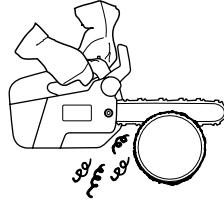
- ドライプリンクの数



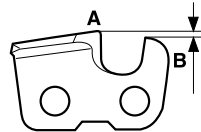
チェンの目立てとデブスゲージ設定の調整

刃の目立てについて

- 刃先の丸くなったチェンは絶対に使わないでください。チェンの刃が丸くなっているかどうかは、ガイドバーを押し付けないと切り込まない、切りくずが非常に小さい、などの現象で判断できます。刃が極端に鈍い場合は、木くずや切りくずではなく木粉が発生します。
- 目立てのよい鋭い刃は抵抗なく木に切り込み、長く大きな木くずまたは切りくずが出ます。

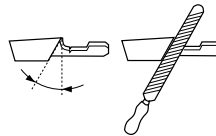


- チェンの木を切る部分をカッターと呼び、刃(A)とデブスゲージ(B)で構成されます。カッターの切り込みの深さは、この2つの高さの差(デブスゲージの設定)によって決まります。

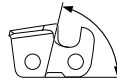


刃の目立てに当たっては、下記の4つの点に注意してください。

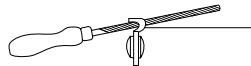
- 目立て角度



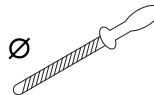
- 切削角度



- ヤスリの位置

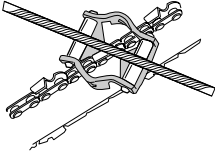


- 丸ヤスリの直径



安全な使用について

チェンの目立てを正しく行うには、正しい道具が必要です。弊社では、弊社製のファイルゲージをお勧めしています。目立てを正しく行うことでキックバックの発生を最小限に抑え、チェンの性能を引き出すことができます。

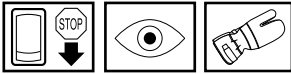


チェンの目立てに関する詳細については、「主要諸元」を参照してください。

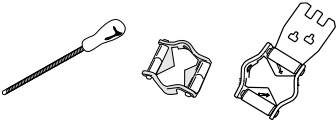


警告!目立ての指示に従わないと、キックバックの危険性が増します。

刃の目立て



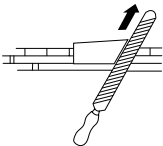
目立てには丸ヤスリとファイルゲージが必要です。お持ちのチェンソーに適する推奨されているヤスリとゲージのサイズについては、「主要諸元」を参照してください。



- チェンの張り具合が正しいかどうか点検します。チェンにたるみがあると横滑りを起こし、正しい目立てが難しくなります。

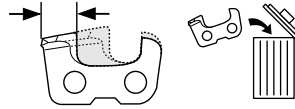


- 常に、内側からヤスリをかけてください。引くときは力を抜いてください。まずすべての刃の片側にヤスリをかけ、次にチェンソーの向きを変えて反対側にヤスリをかけます。



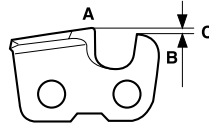
- 刃の長さが揃うようにヤスリをかけてください。刃の長さが 4 mm 以下になった場合は、チェンが摩耗しているため、新しいものと交換する必要があります。

最小 4 mm



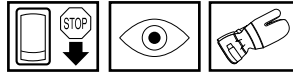
デブスゲージ設定の調整に関する一般的なアドバイス

- 刃 (A) の目立てを行うと、デブスゲージ設定 (C) が小さくなります。最適な鋸断効果を維持するためには、デブスゲージ (B) にヤスリをかけて、推奨されるデブスゲージ設定を得る必要があります。お手持ちのチェンに適した正しいデブスゲージ設定については、「主要諸元」を参照してください。

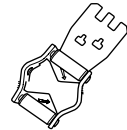


警告!デブスゲージ設定が大きすぎると、キックバック発生危険性が増します!

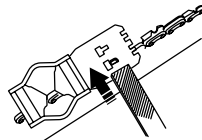
デブスゲージ設定の調整



- チェンの刃は、デブスゲージ設定の調整を行う前に必ず目立てしてください。デブスゲージ設定の調整は、刃の目立て 3 回に 1 回の割合で行うことをお勧めします。注意!これは、刃が著しく短くなっていない場合に限りです。
- 平ヤスリとデブスゲージツールが必要です。デブスゲージの設定を正しく行い、デブスゲージの高さを調整するためにデブスゲージツールの使用をお勧めします。

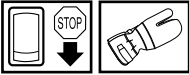


- デブスゲージをチェンの上に置きます。デブスゲージツールの使用方法に関する詳細は、デブスゲージツールのパッケージに記載されています。平ヤスリを使用してデブスゲージツールから突き出たデブスゲージ先端をヤスリかけします。デブスゲージツールに沿ってヤスリを引くときに抵抗を感じなくなったら、デブスゲージの設定は正しく調整されています。



安全な使用について

チェーンの張り具合

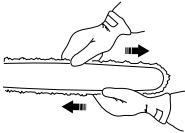


警告!チェーンにたるみがあると外れやすくなり、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。

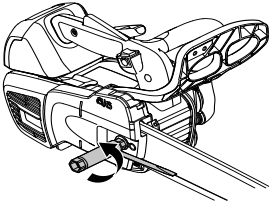
チェーンは使用を重ねると次第に伸びます。そのため、定期的にチェーンを点検してたるみを取る必要があります。給油のたびにチェーンの張りを点検してください。

注意! 真新しいチェーンは、慣らし運転の期間が必要です。この期間中は、より頻繁に点検を行ってください。

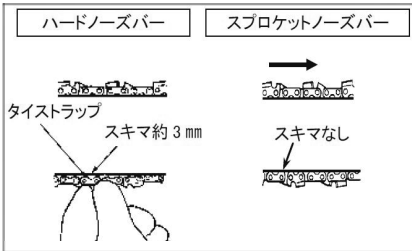
チェーンはできる限り強く張りますが、両手で自由に回せるだけの余裕は残してください。



- クラッチカバーとチェンブレイキを固定しているバーナットを緩めます。コンビレンチを使用します。



- ガイドバーの端を持ち上げ、コンビレンチを使用してチェーン張り調整ネジを回し、チェーンを締めます。チェーンがガイドバーの下側で以下になるよう調整してください。

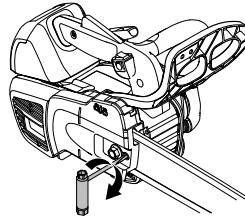


【ハードノーズバーの場合】

ガイドバーの下側中央部で、ソーチェーンを下に軽く引っ張った時にソーチェーンのタイストラップとガイドバーのスキマが3~3.5mmになる程度

【スプロケットノーズバーの場合】

ガイドバーの下側で、タイストラップがガイドバーに軽く触れる程度

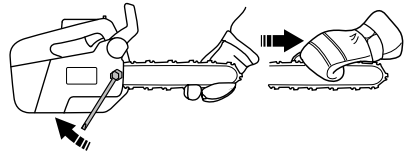


- バーの先端を保持しながら、コンビレンチを使ってバーナットを締めます。

【締め付けトルク】

11.8~14.7N・m (120~150kgf・cm)

手でチェーンを引いて自由に回転させることができ、チェーンの張りが適切であることを確認します。



チェーン張りネジの位置は、チェーンソーのモデルによって異なります。お客様の使用するモデルにおける位置については、「各部名称」の項目を参照してください。

ガイドバーとチェーンの潤滑



警告!ガイドバーとチェーンの潤滑が不十分だとチェーンが切れ、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。

チェーンオイル

チェーンオイルは夏期、冬期の気温差に関わらずその流動性を維持し、チェーン表面に滑らかな皮膜を形成するものです。弊社製のオイルの使用をお勧めします。弊社製のチェーンオイルが入手できない場合は、標準のチェーンオイルをお勧めします。

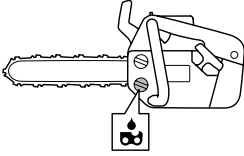
廃油は絶対に使用しないでください! 廃油を使用することは使用者に危険を負わせることがあります。チェーンソーや環境に損害を与えます。

重要事項!植物油をベースにしたチェーンオイルを使用したときは、長期に保管する前に分解してガイドバーとチェーンの溝内を清掃してください。そうしないと、チェーンオイルが酸化する可能性があり、その結果、チェーンが硬くなり、バー先端のスプロケットが詰まることがあります。

安全な使用について

チェンオイルの補充

- 弊社のチェンソーはすべて、チェンの自動注油システムを装備しています。またモデルによっては、オイルの流量調節が可能となっています。



- チェンソーのオイルタンクや燃料タンクは、チェンオイルが消費される前に燃料が消費されるように設計されています。

ただし、この安全設計は正しいタイプのチェンオイルを使用すること（オイルが希薄すぎると燃料より早く切れる）と、キャブレターを指定どおり正しく調整すること（空燃比が希薄だと燃料がオイルより長持ち）、および指定のガイドバーとチェンを使用すること（ガイドバーが長すぎるとより多くのチェンオイルを消費）を前提としています。

チェン潤滑状態の点検

- 給油のたびにチェンの潤滑状態を点検します。「ノーズスプロケットの潤滑」を参照してください。

表面の色が薄い物を、ガイドバーの先端で約 20 cm (8 インチ) 離れたところから狙います。3/4 スロットルで約 1 分間運転すると、表面にオイルの線のはっきりと見えるはずですが、

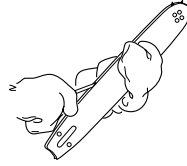


チェンの潤滑状態が悪い場合:

- ガイドバーのオイル孔が詰まっているかどうか点検します。必要に応じて清掃します。



- ガイドバーの端にあるレール溝が汚れていないかどうか点検します。必要に応じて清掃します。

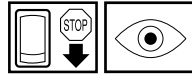


- ノーズスプロケットがスムーズに回転するか、また、スプロケットのオイル孔が詰まっているかどうか点検します。必要に応じて清掃し、注油します。

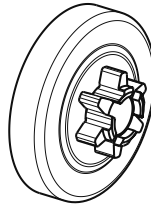


上記の通りに手入れしたにもかかわらず潤滑システムが依然として機能しない場合は、お近くの販売代理店にご連絡ください。

チェンドライブスプロケット



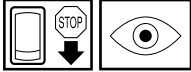
クラッチドラムには、ドライブスプロケットが取り付けられています。



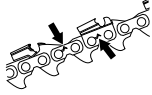
ドライブスプロケットの磨耗度を定期的に点検します。磨耗が激しい場合は交換してください。

安全な使用について

チェーンの摩耗の点検



下記の点に注意してチェーンを毎日点検してください。



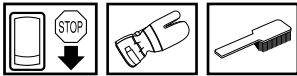
- リベットやリンクにヒビが入っていないか。
- チェーンの動きが硬くなっていないか。
- リベットやリンクの摩耗が激しくないか。

上記に当てはまる状態が見受けられたらチェーンを交換してください。

ご使用中のチェーンと新品のチェーンの摩耗の度合いを比較することをおすすめします。

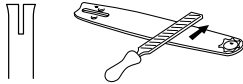
チェーンの刃が 4 mm 以下になったら、チェーンを交換してください。

ガイドバー



下記の項目を定期的に点検してください：

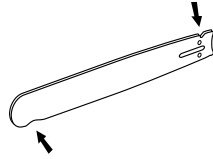
- ガイドバーの縁にバリがないか。必要に応じヤスリをかけます。



- ガイドバーのレール溝の摩耗が激しくないか。必要に応じガイドバーを交換します。



- ガイドバーの先端が欠けていないか、摩耗が激しくないか、ガイドバーに曲がりがないかを点検します。ガイドバーの先端下側にへこみができている場合、チェーンのたるみが原因です。



- ガイドバーの耐用年数を延ばすには、バーの上下を毎日入れ替えてください。



警告!チェーンソー事故の大半は、チェーンが使用者に当たった際に発生します。

身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

技能を超えていると感じる作業を、無理に進めないでください。「使用者の身体保護具」、「キックバックの避け方」、「ガイドバーとチェーン」、「一般的な作業方法」を参照してください。

キックバックが起こりやすい状況을避けてください。「製品の安全装置」を参照してください。

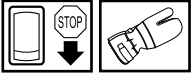
指定の防護具の使用・点検を守ってください。「主要諸元」、「安全な使用について」を参照してください。

チェーンソーの安全装置がすべて正常に機能しているか点検してください。「一般的な作業方法」、「安全な使用について」を参照してください。

片手ではチェーンソーのコントロールが十分にできません。常に、ハンドルを両手でしっかりと握って作業してください。

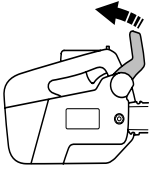
組み立て

ガイドバーとチェンの取り付け



警告! チェンを取り扱う際は必ず手袋を着用してください。

- フロントハンドガードをフロントハンドルの方に動かして、チェンブレーキがかかっていないことを確認します。



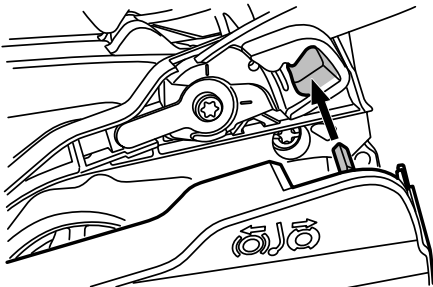
- バーナットとクラッチカバー（チェンブレーキ）を取り外します。緩衝材（ボール紙）も取り外します。
- バーボルトにバーを取り付けます。バーを最後尾に取り付けます。
- チェンをドライブスプロケットとガイドバーのレール溝に装着します。ガイドバーの上側から装着作業を始めてください。



- カッターリンクの刃がガイドバーの上側で前向きになっていることを確認します。
- クラッチカバー（チェンブレーキ）をはめ、チェン調整ピンをガイドバーの穴に通します。チェンのドライブリンクがドライブスプロケットの上に正しく乗っているか、チェンがガイドバーのレール溝にきちんと入っているかを確認します。バーナットを指できつく締めます。

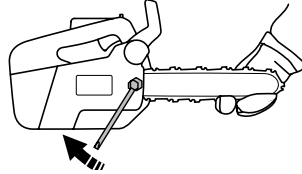


注意! クラッチカバーをはめる時、レバーをフロントハンドガードの穴に入れてください。

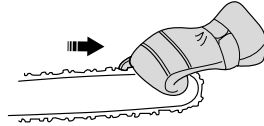


- コンビレンチを使ってチェン張りネジを時計回りに回し、チェンを締めます。チェンがガイドバーの下側でたるまなくなるまで締めてください。「チェンの張り具合」の項目を参照してください。

- ガイドバーの下側にたるみがなく、しかもチェンを手で自由に回せる程度になったら、チェンは正しく張れています。バーの先端を保持しながら、コンビレンチを使ってバーナットを締めます。



- 新品のチェンに取り替えたときは、チェンがなじむまで張り具合を頻繁に調整する必要があります。定期的なチェンの張り確認してください。正しく張ったチェンは切れも良く、寿命も長く持ちます。



スパイクの取り付け

スパイク（オプション設定）の取り付けについてはお近くの販売代理店にお問い合わせください。

燃料の取り扱い

燃料

注意!本機は2サイクルエンジンを搭載しているため、運転にはガソリンと2サイクルオイルとの混合燃料が必要です。正しい混合率を確保するためには、オイルの量を正確に計量することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな誤差でも配合に多大な影響を及ぼすことがあります。



警告!燃料を取り扱う際は、常に十分な換気を行ってください。

ガソリン

- 良質な無鉛レギュラーガソリンをご使用ください。

慣らし運転

最初の10時間は、長期間高速にしすぎないでください。

2サイクルオイル

- 最良の効果と性能を得るには、ゼノア純正2サイクルエンジンオイル(FD級)をご使用ください。このオイルは本機に使用される空冷式2サイクルエンジン用として特別に調合されています。(混合比50:1)
- ゼノア純正2サイクルエンジンオイルが入手できない場合は、高品質の空冷エンジン用2サイクルオイルを使用することができます(UASO性能分類FD級のオイル、混合比50:1)。オイルを選択する場合は、ディーラーにお問い合わせください
- アウトボードオイルとも呼ばれる水冷式船外機用の2サイクルエンジンオイルは絶対に使用しないでください。
- 4サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。

ガソリン、L(リッター)	2サイクルオイル、L(リッター)
混合比 50 : 1 (2%)	
1	0.02
5	0.10
10	0.20
15	0.30
20	0.40

—ゼノア純正 ビッグバンガソリン—

ゼノア純正混合ガソリン「ビッグバンガソリン」は、運転休止期間の長いエンジン機器用に開発された2サイクルエンジン専用の混合燃料です。

- ◎変質しにくい特殊ガソリンの採用でキャブ詰まり追放
 - ◎エンジン内部を摩耗や汚れから守り、排気をきれいにする各種添加剤配合
 - ◎混合の手間不要
 - ◎給油・持ち運び・保管に便利な金属容器入りなどのすぐれた特長を持っており、運転休止の直前にお使いになるだけで、運転再開時のエンジントラブル予防効果を発揮します。
- 詳しくはお買い上げ店にお問い合わせください。

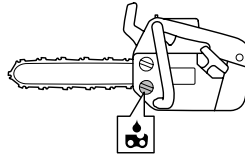
混合



- ガソリンとオイルを混合するときは、常に清潔な燃料用容器をご使用ください。
- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次に、オイルの全量を入れます。混合燃料をよく混ぜ(振り)ます。最後に残りのガソリンを加えます。
- 製品の燃料タンクに給油する前に、混合燃料を良く混ぜ(振り)ます。
- 1ヵ月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。
- 製品をしばらく使わないときは、燃料タンクを空にし、清掃してください。

チェーンオイル

- 粘度の高い専用オイル(チェーンオイル)の使用をお勧めします。



- 廃油は絶対に使用しないでください!オイルポンプやガイドバー、チェーンの損傷の原因となります。
- 水で薄めるタイプの水溶性チェーンオイルは、ケース類を腐食させますので使用しないでください。
- 鉱物性チェーンオイルと植物性チェーンオイルが混ざるとオイルポンプの故障の原因となりますので混ぜないでください。チェーンオイルの種類を変更する場合は、必ずオイルタンク内を洗浄してください。
- 外気温に合わせ、正しいオイル(適正な粘着性)を使用することが重要です。
- 気温が0°C以下になると、粘性が高くなりすぎるオイルもあります。オイルの粘性が高すぎるとオイルポンプに負担がかかり、ポンプのコンポーネントの損傷の原因となります。
- チェーンオイルの選択に当たっては、お近くの販売代理店にお問い合わせください。

燃料の取り扱い

ソーチェンとガイドバーの潤滑用オイルにはゼノア純正チェーンオイルを使用してください。

【推奨粘度】

- 通年: SAE # 10W-30
- 夏季: SAE # 30または# 40
- 冬季: SAE # 20

給油



警告!火災を避けるため、以下の注意を守ってください。

燃料付近では、喫煙したり、熱いものを置いたりしないでください。

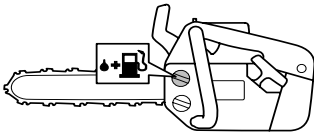
給油をする前には、必ずエンジンを止めて数分間温度が下がるのを待ってください。

給油の際には、超過圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

給油後は燃料キャップをしっかりと閉めてください。

製品を始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

燃料キャップの周囲をきれいにします。燃料タンクとチェーンオイルタンクは、定期的な清掃が必要です。燃料フィルターは、少なくとも年に一度交換してください。タンク内に汚れが侵入すると、故障の原因となります。混合燃料は、給油前に良く振って混ぜてください。チェーンオイルタンクと燃料タンクの容量は、お互い釣り合うように設計されています。チェーンオイルタンクと燃料タンクは必ず同時に補充するようにしてください。



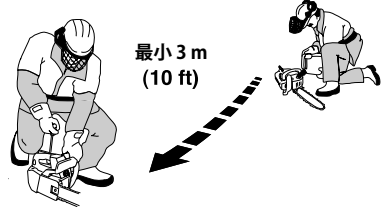
警告!燃料や燃料のガスは非常に引火性の高いものです。燃料やチェーンオイルの取り扱いには十分注意してください。火災発生や爆発、有毒ガスの吸引などの危険にご注意ください。



警告!キャップは破損したら、必ず交換してください。

燃料の安全について

- エンジンの作動中は絶対に給油を行わないでください。
- 燃料の補給や混合（ガソリンと2サイクルオイル）を行うときは、十分に換気してください。給油後は、給油した場所から少なくとも3m離れたところで始動してください。



- 下記の条件では、決して本機を始動しないでください:
 - 1 チェンソーに燃料やチェーンオイルをこぼしたとき。きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。
 - 2 皮膚や衣服に燃料をこぼしたとき。まず着替えを行います。皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。
 - 3 燃料が漏れている場合。燃料キャップと燃料ホースから漏れていないか、定期的に点検してください。



警告!スパークプラグキャップやイグニッションコードにあきらかな損傷のある場合は、絶対にチェーンソーを使用しないでください。火花が発生し火災の原因となります。

搬送と保管

- チェンソーと燃料は、電気機器、電気モーター、リレー/スイッチ、ボイラーなど、火花や裸火を発するものから離して保管し、液体漏れやガスによる火災発生危険性をなくしてください。
- 燃料の保管には、保管専用に承認された容器を使用してください。
- チェンソーを長期間保管する場合や搬送する場合は、燃料とチェーンオイルを抜いて、両方のタンク内を空にしてください。廃油の廃棄方法については、お近くのガソリンスタンドにお問い合わせください。
- 搬送や保管の際は、チェンの鋭い刃先が人や物にぶつからないようガイドバーとチェンに必ずカバーを取り付けてください。チェンが作動していない場合でも、使用者や周りの人にチェンが当たると身体に重傷を負わせる原因になります。
- 搬送の間、機器をしっかりと固定してください。

長期間の保管

換気の良い場所で燃料とオイルタンクを空にします。燃料は承認されている缶に入れて安全な場所に保管してください。ガイドバーカバーを取り付けます。製品を掃除します。「メンテナンスのスケジュール」を参照してください。

長期間保管する際は、必ず事前に本機を清掃し入念なサービスを行ってください。

始動と停止

始動と停止



警告!始動時には以下の注意点を守ってください。

チェンソー始動中に回転するチェンに接触する機会を減らすため、チェンソーを始動する時は必ずチェンブレーキをかけてください。

ガイドバーやチェン、すべてのカバー類が正しく装着されていない状態では、絶対にチェンソーを始動しないでください。クラッチが外れて負傷の原因となることがあります。

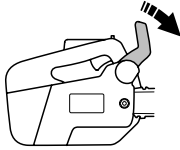
チェンソーを固い地面に置きます。足場が良いこととチェンが他の物に接触しないことを確認してください。

剪定作業中にチェンソーを始動させる必要がある場合、「作業技術」の「剪定作業中におけるチェンソーの始動」の項目を参照してください。

作業現場に関係者以外の人や動物がいないことを確認してください。

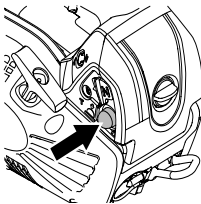
始動

チェンソーを始動する際は、必ずチェンブレーキをかけておいてください。フロントハンドガードを前に倒してブレーキをかけます。

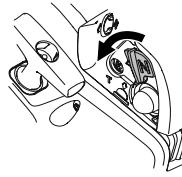


冷時始動

始動ポンプを、内部に燃料が現れるまで、指で押して離す操作をくりかえしてください。



チョーク:チョークコントロールをチョーク開位置にします。



左手でフロントハンドルを握り、チェンソーを地面へ押し付けます。右足でエンジンを押さえながら、右手でスターターハンドルを持ち、抵抗を感じるまで(スターター爪が噛み合うまで)スターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。スターターロープは絶対に手に巻き付けしないでください。



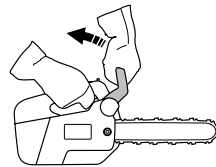
注意!スターターロープをいっぱい引き出し、引っ張った状態からスターターハンドルを急に放さないでください。製品に損傷を与える可能性があります。

初爆音と共にエンジンが点火したら、チョークコントロールをチョーク開位置に戻します。そしてエンジンが始動するまでロープを強く引き続けます。

エンジン始動後、スロットルトリガーを握り、エンジン速度をアイドルングに戻してください。

注意!エンジン始動時は、エンジン速度がアイドルング速度を上回るように設定する機能が作動しています(スロットルスタートロック)。スロットルトリガーを握ることで、これを解除できます。エンジン速度が落ちてアイドルング状態になり、クラッチやチェンブレーキを不要な摩耗から守ることができます。

フロントハンドガードを後方に引いて、チェンブレーキを解除してください。これでチェンソーは使用準備完了です。

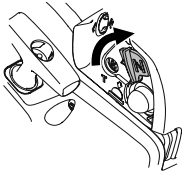


始動と停止

暖時始動

始動方法は冷時始動とほぼ同様ですが、チョークコントロールを下記のようにスタートスロットル位置にします。

スタートスロットル位置：チョークコントロールをチョーク閉の位置まで動かし、再び元の位置に戻して、スタートスロットルの設定を有効にします。



左手でフロントハンドルを握り、チェーンソーを地面へ押し付けます。右足でエンジンを押さえながら、右手でスターターハンドルを持ち、抵抗を感じるまで（スターター爪が噛み合うまで）スターターロープをゆっくり引いて、抵抗を感じたら一気に強く引きます。スターターロープは絶対に手に巻き付けしないでください。

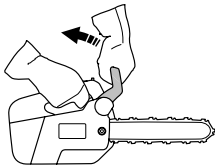


注意！スターターロープをいっぱい引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。本機が損傷を受ける可能性があります。

エンジン始動後、スロットルトリガーを握り、エンジン速度をアイドリングに戻してください。

注意！エンジン始動時は、エンジン速度がアイドリング速度を上回るように設定する機能が作動しています（スロットルスタートロック）。スロットルトリガーを握ることで、これを解除できます。エンジン速度が落ちてアイドリング状態になり、クラッチやチェンブレイキを不要な摩耗から守ることができます。

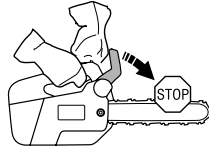
フロントハンドガードを後方に引いて、チェンブレイキを解除してください。これでチェーンソーは使用準備完了です。



- ガイドバーやチェーン、すべてのカバー類が正しく装着されていない状態では、絶対にチェーンソーを始動しないでください。「組み立て」を参照してください。チェーンソーにバーとチェーンが付いていないと、クラッチが外れて重傷を負う原因となります。



- チェーンソーを始動する際は、必ずチェンブレイキをかけてください。始動方法は「始動と停止」を参照してください。チェーンソーは宙に浮かせて始動しないでください。こうしたやりかたは、チェーンソーのコントロールを失いやすく、極めて危険です。



- 本機を室内で始動しないでください。排気ガスを吸入すると危険です。
- 周囲を良く見回し、人や動物が切削装置に触れる危険がないことを確認してください。



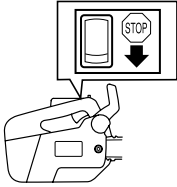
- チェーンソーは常に両手で持ってください。右手でトップハンドルを、左手でフロントハンドルを握ってください。右利き、左利きに関わらず、必ずこの握り方をしてください。親指と他の指で取り囲むようにしっかりとチェーンソーのハンドルを握ります。



始動と停止

停止

スロットルレバーを完全に戻して、アイドリングでしばらく運転してください。
ストップスイッチを停止位置に押し、エンジンが停止します。(スイッチを押し続ける必要はありません。)



注意！スロットルレバーを引いたままストップスイッチを停止位置に押し、エンジンに無理がかかりますので、緊急時以外はスロットルレバーを戻してから停止操作をしてください。

安全に関する基本事項



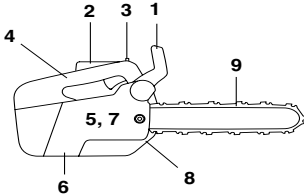
警告!この取扱説明書に記載されている操作方法に関する情報は、このトップハンドルチェーンソーの操作のトレーニング用ではありません。トップハンドルチェーンソーをお使いいただけるのは、トレーニングを受けた林業事業者に限られます!適切なトレーニングを受けずに使用すると、重傷を負うおそれがあります。確信をもてない作業は行わないでください!

重要事項!この項目では、チェーンソーの使用に際しての基本的な安全注意事項について説明しています。記載された情報は、専門家の技術や経験に相当するものではありません。安全性に懸念が生じたら、作業を停止し、専門家のアドバイスを受けてください。チェーンソーをお買い上げになった販売店、認定代理店、熟練のチェーンソーユーザーなどに相談してください。確信をもてない作業は行わないでください!

必ず以下の注意を守ってください。

- チェンソーガイドバーの先端のキックバックゾーンで切らない。
- チェンソーを片手で操作しない。
- 落下する断面を受け止めようとしない。
- 樹上で切るときは、必ず安全帯を使用する。

使用前に以下の項目を点検してください

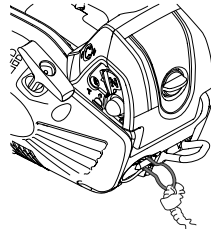


- 1 チェンプレーキが正しく機能し、損傷がないことを確認します。
- 2 スロットルトリガーロックが正しく機能し、損傷がないことを確認します。
- 3 ストップスイッチが正しく機能し、損傷がないことを確認します。
- 4 ハンドル部にオイルが付着していないことを確認します。
- 5 防振装置が正しく機能し、損傷がないことを確認します。
- 6 マフラーがしっかりと固定され、損傷がないことを確認します。
- 7 チェンソーのすべてのボルト類にゆるみがないか、また損傷を受けたりなくなったりしていないか確認します。
- 8 チェンキャッチャーが指定位置に取り付けられ、損傷がないことを確認します。
- 9 チェンの張り具合を点検してください。

一般的な作業方法

剪定作業の間、チェーンソーをしっかりと固定する必要があります。チェーンソーをしっかりと固定するには、チェーンソーのローブアイレットに安全帯を接続します。

安全帯の一端をチェーンソーのローブアイレットに取り付け、もう一方の端を使用者のハーネスに取り付けて、チェーンソーを固定します。安全帯は使用者がチェーンソーを制御できなくなった場合の安全装置で、地面へのチェーンソーの落下をローブ/ストラップが防止します。推奨の主固定方法は、使用者のハーネスの固定フックにベルトアイレットを取り付けることです。ただし、主固定に安全帯を使う場合は、チェーンソー全体が安全帯より下になるようにして、作業する高さから安全帯の端に落ちないようにします。



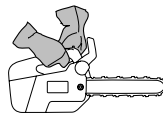
身体保護具を着用してください。「使用者の身体保護具」の項の説明を参照してください。

一般的な注意事項



警告!伐倒作業では、木を切り終わったらイヤマフを外してください。木が倒れるときの音や危険な兆候を聞き取る必要があります。

- 1 キックバックとは何か、またそれがどのようにして起こるのかを理解していれば、実際に発生したときにうろたえずに対応できます。予備知識は危険の軽減にもつながります。キックバックは突然激しく発生することがあります。
- 2 集中力が欠けると、近くの枝などをガイドバーのキックバックゾーンにうっかり当ててしまい、キックバックの原因となります。
- 3 チェンソーを持つときは、必ず右手でトップハンドルを、左手でフロントハンドルを握ってください。親指とその他の指でハンドルを包むように持ちます。右利き、左利きに関わらず、この方法で握ってください。キックバックの影響を最小限に抑え、チェーンソーのコントロールを保つのに適した握り方です。

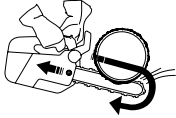


作業技術

- 4 肩より高い位置でのチェーンソーの使用や、ガイドバー先端の使用は絶対におやめください。絶対に片手でチェーンソーを操作しないでください！



- 5 必ずフルスロットルで切ってください！
- 6 切り終えるごとにスピードをアイドルリングに落とします(ソーチェンに抵抗がかからない無負荷の状態)でエンジンを長時間フルスロットル運転すると、深刻な損傷の原因となることがあります。
- 7 ガイドバーの上側で切るとき、つまり木の下側から切るときは特に注意してください。
このとき、チェーンソーを使用者のほうに押し戻そうとする力がソーチェン内に働きます。ソーチェンが詰まると、チェーンソー本体が使用者に向かって押し返されることがあります。

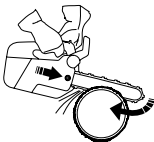


- 8 この力を抑えきれないとチェーンソーが徐々に後退し、ついにはキックバックゾーンが木に接触する状態となってキックバックが発生します。

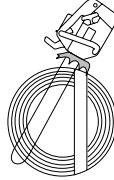


「キックバックの避け方」を参照してください。

- 9 ガイドバーの下側で切る方法、つまり木の上から下にに向かって切るとき、チェーンソーは自ら木のほうに引き寄せられ、チェーンソー本体の前端がちょうど幹に乗る格好となります。引き切りの方が、チェーンソーやキックバックゾーンの位置の制御が簡単です。



- 10 カutting装置の目立て・メンテナンス方法の指示を守ってください。Cutting装置を交換する際は、弊社指定の組み合わせのみをご使用ください。詳細は「Cutting装置」、「主要諸元」を参照してください。
- 11 スパイクバンパー(装着されている場合)を幹にセットし、切り開くための力をかけるときにてこととしてご使用ください。



ロープとハーネスを使用してチェーンソーで剪定(せんてい)を行う場合

本章では、ロープとハーネスを使用して高所でチェーンソーによる剪定作業を行う場合に、危険を防止するための作業手順を記載しています。これは、トレーニング用ガイドの基本とすることができますが、正式なトレーニングを必ず受けなければいけません。

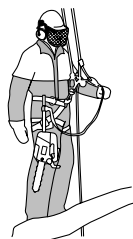
高所における一般的な作業方法

ロープとハーネスを使用して高所でチェーンソーによる剪定をする作業者は、絶対に1人で作業をしてはいけません。緊急時の適切な対応について訓練を受けた、経験ある作業者が、高所のチェーンソー作業者を地上からサポートしなければいけません。

チェーンソーで剪定を行う使用者は、木に登る場合や、作業位置を決める場合の一般的な安全技術についてトレーニングを受けなければならず、ハーネス、ロープ、ストロップ、カラビナ、その他の装備を適切に身につけて、使用者とチェーンソーの両方を安全な作業位置に固定し続けるようにする必要があります。

チェーンソーを剪定に使用するための準備

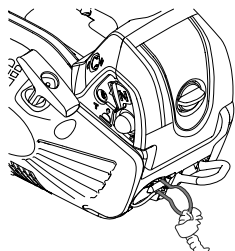
チェーンソーの点検、燃料の補給、始動、およびウォームアップは地上にいる担当者が行い、樹上の使用者にチェーンを送る前に、チェーンのブレーキをかけてください。以下のようにして、チェーンソーに、使用者のハーネスに取り付けるための適切なチェーンソー用ストラップを装着してください。



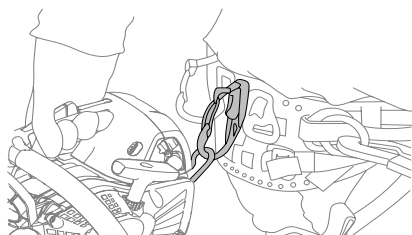
a) チェンソーの後部あるローブアイレットにロープを取り付けます。

注記! チェンソー用ストラップ 577 43 80-01 または類似の緩衝装置を使用して、チェンソーをハーネスに取り付けてください。

安全帯の一端をチェンソーのローブアイレットに取り付け、もう一方の端を使用者のハーネスに取り付けて、チェンソーを固定します。安全帯は使用者がチェンソーを制御できなくなった場合の安全装置で、地面へのチェンソーの落下をロープ/ストラップが防止します。推奨の主固定方法は、使用者のハーネスの固定フックにベルトアイレットを取り付けることです。ただし、主固定に安全帯を使う場合は、チェンソー全体が安全帯より下になるようにして、作業する高さから安全帯の端に落ちないようにします。



b) 使用者のハーネスに間接的(ストラップを使用)および直接的(チェンソーのアタッチメントポイントを使用)にチェンソーを取り付けることができるように、適切なカラビナを用意します。



注意! ベルトアイレットは、いわゆる安全ロープが使用できるように設計されていません。この場合は、ローブアイレットを使用してください。

c) チェンソーを持ち上げて作業者に送るときは、チェンソーが十分に固定されているようにします。

d) チェンソーが上昇手段から切り離す前に、ハーネスへしっかりと固定してください。

チェンソーは、ハーネス上の推奨された取り付け位置にのみ取り付けてください。取り付け位置は、中間点(前部あるいは後部)、または側面部にあります。可能であれば、チェンソーを後部中央の中間点に取り付けます。こうすることで、チェンソーをまっすぐに持ち上げることができ、作業者の背骨を中心として重量を支えることができます。



チェンソーの取り付け位置を動かす場合、作業者は、前の取り付け位置から外す前に、新しい取り付け位置でしっかりとチェンソーが固定されていることを確認します。


チェンソーを剪定に使用する場合

チェンソーを剪定作業に使用する場合に発生した事故を分析すると、チェンソーを片手で不適切に使用したことが主な原因であったことが示されています。事故が発生する多くの場合において、作業者はチェンソーを両手で持つことができるような安定した作業位置を確保していませんでした。このような状況では、以下のような理由で危険が増加します。

- キックバックが発生したときにチェンソーをしっかり握っていない。
- チェンソーのコントロールができず、作業者の体に接触する(特に、左手と腕)。
- 不安定な作業位置で体のコントロールを失い、チェンソーに接触する(チェンソーの作業中に不意に動いてしまう)。

作業技術

両手で使用するための作業位置を確保する

 **警告!**チェーンソーを操作するときは決して片手で握らないでください。チェーンソーは片手では安全にコントロールできません。自分がけがを負うおそれがあります。常に、ハンドルを両手でしっかりと握ってください。

作業者がチェーンソーを両手で持てるようにするため、原則として、作業者は以下のように作業位置を確保します。

- 水平で切断を行う場合は、チェーンソーを腰の位置に持つ。
- 垂直に切断を行う場合は、チェーンソーをみぞおちの位置に持つ。


作業者が、垂直に伸びた幹のごく近くで作業を行う場合で、横方向にかかる力が弱いときは、安定した足場さえあれば、安定した作業位置を維持できるかもしれませんが、しかし、作業者が幹から遠ざかるときは、例えば補助的な固定点を通して、またはハーネスから直接に補助的な固定点へ調節可能なストロップを使用してロープの方向を変えるなどして、増加する横方向の力を弱める必要があります。



安定した足場を作業位置において確保する場合は、スリングによる一時的な足場も役に立ちます。



チェーンソーがはさまった場合

 **警告!**鋸断中にソーチェーンが挟まれてしまったら、エンジンを止めてください!チェーンソーを力任せに引き抜こうとしないでください。チェーンソーを引き抜いた瞬間にソーチェーンが外れて負傷するおそれがあります。そこで切り口を広げ、チェーンソーを抜き取ります。


チェーンソーが切断中にはさまって動かなくなったとき、作業者は以下を行います。

- チェーンソーのスイッチを切り、チェーンソーを切断部の内側(つまり、幹の側)に向けて固定するか、または別のロープに固定します。
- 必要に応じて枝を持ち上げながら、切り口からチェーンソーを引き出します。

- 必要であれば、動かなくなったチェーンソーを引き出すため、ハンドソーや他のチェーンソーを使用して、チェーンソーから最低 30 センチ離して切断をします。

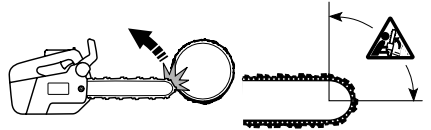
はさまったチェーンソーを引き出すためにハンドソーや他のチェーンソーを使用した場合、引き出すための切り口は常に外側に向けて(枝の先端に向けて)切断します。こうすると、チェーンソーが切り口に閉じ込められてしまうことを防ぎます。

キックバックの避け方

 **警告!**キックバックは突然激しく起こることがあります。チェーンソーがはじき返されてガイドバーとチェーンが使用者に向かってくる現象を言います。チェーンの回転中にキックバックが発生すると、重傷や時には致命傷の原因となることがあります。キックバックが起こる理由を理解し、正しい技術と慎重な作業で発生を避けることが非常に重要です。

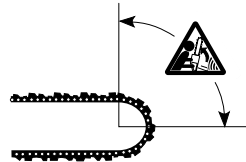
キックバックとは何か?

キックバックとは、ガイドバーの先端上部 1/4 のところ(キックバックゾーン)が何か他のものに接触し、チェーンソーが突然激しくはじき返される現象を言います。



キックバックは、常にガイドバーの切削面で起こります。通常、チェーンソーがガイドバーを先にして、使用者の方に斜め上にはじき返されます。ただし、キックバックゾーンが何かに触れたときのチェーンソーの使い方により、異なる方向にはじき返されることもあります。

キックバックは、ガイドバーのキックバックゾーンに何かが接触したときにのみ起こります。



メンテナンス

全般

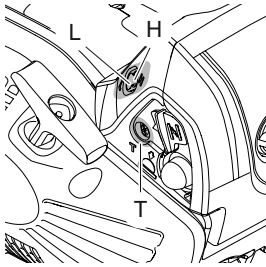
使用者は本説明書に記載されている点検とサービスだけを実行してください。

重要事項!この取扱説明書に記載されていないメンテナンスについては、お近くのサービス代理店(小売店)に依頼してください。

キャブレターの調整

機能

- キャブレターはスロットルコントロールを介してエンジンの速度を制御します。キャブレター内で空気と燃料が混合されます。空燃比は調節可能です。本機の性能を最大限に引き出すには、正しく調整することが重要です。
- キャブレターを調整するということはすなわち、使用地域の気候や標高、ガンソリンや2サイクルオイルのタイプなど、個々の条件に合わせてエンジンを適応させるということです。
- キャブレターには3種類の調整箇所があります。
 - L = 低速ニードル
 - H = 高速ニードル
 - T = アイドル調整スクリュー



- LニードルとHニードルは、スロットルが開くことによって流入する空気量に比例して必要となる燃料の量を調節するのに使用します。ネジは、時計方向に回すと空燃比が希薄に(燃料が少なく)なり、反時計方向に回すと濃厚に(燃料が多く)なります。空燃比が希薄だとエンジンの速度が速くなり、濃厚だと遅くなります。
- Tスクリューはアイドルングでのスロットル設定を調節します。Tスクリューを時計方向に回すとアイドルングの速度が速くなり、反時計方向に回すと遅くなります。

基本設定と慣らし運転

キャブレターは工場出荷時のテストに伴い、基本設定に調整されています。最初の10時間は、長時間高速にしすぎないでください。

注意!アイドルングでソーチェンが走行する場合は、ソーチェンが停止するまでTネジを反時計方向に回してください。

推奨アイドルング速度:2900 r/min

微調整

「慣らし運転」を終えたら、キャブレターの最終的な調整を行います。微調整は資格のある人が行うようにしてください。不慣れな方はお買い上げ店に調整を依頼してください。まずLニードル、次にアイドルTスクリュー、最後にHニードルを調整します。

燃料タイプの変更

燃料のタイプを変更した後、始動や加速、最高速度などの状態が変更前と異なる場合は、チェンソーの微調整が必要です。

調整時の厳守条件

- 調整を行う前に必ずエアフィルターを清掃し、シリンダーカバーを取り付けてください。エアフィルターが汚れたままキャブレターの調整を行うと、後にフィルターを清掃したときに空燃比が希薄になってしまいます。これはエンジンの深刻な損傷につながります。
- LニードルとHニードルのネジは、ストップ位置を越えて無理に回そうとしないでください。損傷の原因となることがあります。
- 始動方法に従ってチェンソーを始動し、温まるまで約10分運転します。
- ガイドバーが向こうを向くように、またバーやソーチェンが地面や他の物と接触しないように、平らな場所にチェンソーを置きます。

ニードルの基準開度

高速Hニードル:2回転と1/2

低速LニードルL:2回転

低速Lニードル

Lニードルのネジを止まるところまで時計方向に回します。その位置から基準開度分、反時計方向に回してください。エンジンの加速状態が悪い、またはアイドルングが不安定な場合は、Lニードルを1/2回転の範囲内で回してください。

アイドル調整Tスクリューの微調整

アイドルングの調整はTスクリューで行います。調整が必要な場合は、エンジンがかかっている状態で、まずTスクリューをソーチェンが走行し始めるまで時計方向に回します。次にソーチェンが回転しなくなるまで反時計方向に回します。どの位置でもエンジンがスムーズに回転し、ソーチェンが走行し始めるまでの回転数に余裕があれば、アイドルングスピードは正しく調整されています。

メンテナンス



警告!アイドリングの速度設定ができずソーチェンが停止しない場合は、お近くのサービス代理店にご連絡ください。調整または修理が完了するまで、本機のご使用をお控えください。

高速 H ニードル

工場出荷時のエンジンは海拔0mに合わせて調整されています。標高の高い場所や異なる気候条件や気温、湿度下で使用する場合、高速ニードルの微調整が必要になることがあります。

注意!Hニードルのネジを締めすぎると、ピストンやシリンダーの損傷の原因となることがあります。

工場における試運転では、エンジンが最高の性能を発揮すると同時に法的基準を満たすよう、高速ニードルを設定しています。

暖気運転後スロットルを全開にして調子を見ます。基準開度から1/2回転の範囲内で調整してください。時計周りに回しすぎる(絞りすぎる)と混合気が薄くなりすぎて、出力が低下します。反時計回りに回しすぎる(開きすぎる)と混合気が濃くなりすぎて、燃費が悪くなりますので、注意してください。

適正調整されたキャブレター

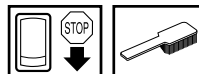
キャブレターが適正に調整されていると、チェーンの加速がスムーズに行われ、フルスロットルで安定した回転となります。アイドリングでソーチェンが走行しないことも重要です。低速ネジの設定が希薄すぎると、始動困難や加速不良の原因となります。高速ネジの設定が希薄すぎると出力不足や加速不良になり、さらにエンジン損傷につながる可能性があります。

チェーンの安全装置の点検、メンテナンス、サービス

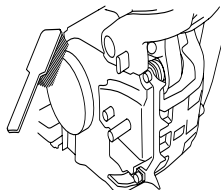
注意!本機に関するすべてのサービス、修理には、特別な研修が必須です。製品の安全装置には、特にこのことが該当します。お手持ちのチェーンの安全装置が以下のチェック項目の1つでも満たさない場合は、お近くのサービスショップに持参して修理を依頼することをお勧めします。

チェンブレイキとフロントハンドガード

ブレイキバンド摩耗の点検

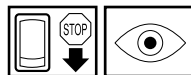


チェンブレイキとクラッチドラムから、木くず、樹脂、汚れなどをブラシで取り除きます。汚れや摩耗は、ブレイキ機能障害の原因となることがあります。

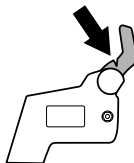


ブレイキバンドの厚みが少なくとも 0.6 mm あるかどうか、定期的に測定してください。

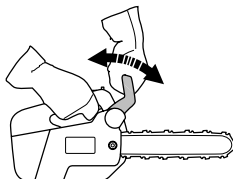
フロントハンドガードの点検



フロントハンドガードに損傷がないか、また、ヒビなどの見て明らかな欠陥がないかどうかを点検します。



フロントハンドガードを前後に動かしてみて、スムーズに動かないか、クラッチカバーで確実に止まるかなどを点検します。



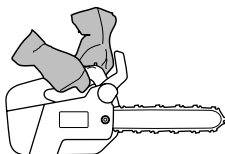
メンテナンス

チェンブレイキの点検

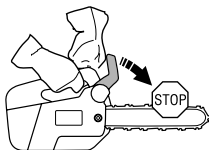
チェンソーを固い地面に置き、始動します。チェンが地面やその他の物に触れないよう、注意してください。始動方法は「始動と停止」を参照してください。



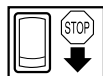
親指と残りの指でハンドルを包むようにして握り、チェンソーをしっかりと持ちます。



フルスロットルにしてから、左手首でフロントハンドガードを前に倒してチェンブレイキをかけます。このとき、フロントハンドルから手を放さないでください。チェンは直ぐに停止します。



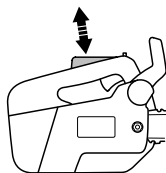
スロットルトリガーロック



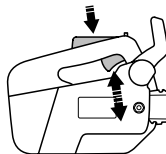
- スロットルトリガーロックを放したとき、スロットルトリガーがアイドルリングの設定になっていることを確認します。



- スロットルトリガーロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。

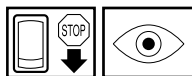


- スロットルトリガーとスロットルトリガーロックがスムーズに動き、リターン springs が正しく機能していることを点検します。

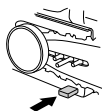


- チェンソーを始動し、フルスロットルにします。スロットルトリガーを放せばチェンの走行が停止し静止状態を保つことを確認します。

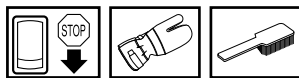
チェンキャッチャー



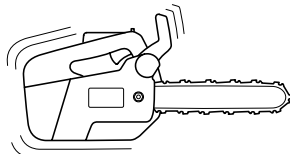
- チェンキャッチャーに損傷がないか、チェンソー本体にしっかりと固定されているかどうかを点検します。



振動軽減システム

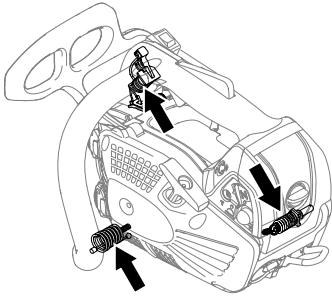


振動軽減システムにヒビや変形がないか、定期的に点検します。



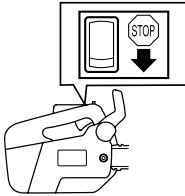
メンテナンス

振動軽減システムがエンジンユニットとハンドルユニットにしっかり固定されていることを確認します。

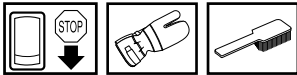


ストップスイッチ

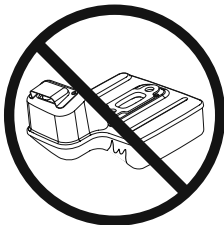
エンジンを始動し、ストップスイッチを停止位置にしたときにエンジンが停止することを確認します。



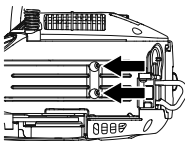
マフラー



欠陥のあるマフラーを装着した製品は決して使用しないでください。



マフラーが本機にしっかりと固定されているかどうか、定期的な点検してください。



マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。排気ガスは高温で、火花を含むことがあります。火花が、乾燥した可燃性の物質に飛び移ると、火災を発生させることがあります。

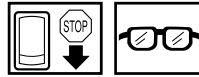
スターター



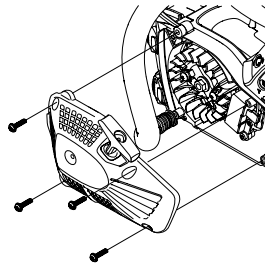
警告!リターンズプリングは引っ張られた状態でスターターハウジング内に収まっているので、不注意に取り扱おうと飛び出して人的傷害をもたらすことがあります。

リターンズプリング、スターターロープを交換する際は十分に注意してください。保護メガネおよび保護手袋を着用してください。

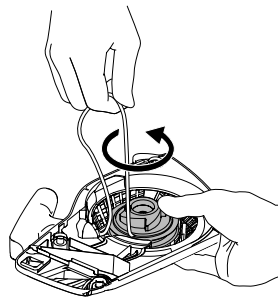
切れたり擦り減ったりしたスターターロープの交換



- スターターをエンジン側に固定しているネジをゆるめ、スターターを外します。

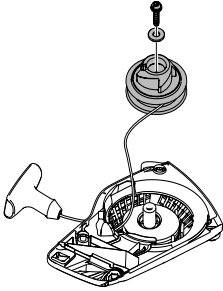


- ロープを約30cm引き出し、プーリー外周の切欠部にロープをかけます。プーリーをゆっくりと逆方向に回し、リターンズプリングの張力を逃がします。



メンテナンス

- プーリーの中心のボルトを外し、プーリーを取り外します。

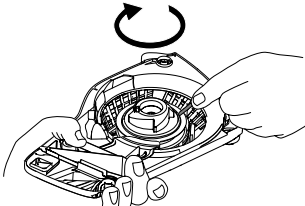


- 新しいスターターロープをプーリーに挿入し、固定します。ロープをプーリーに約3回転分巻きつけます。リターンスプリングの端がプーリーに引っ掛かるように、プーリーをリターンスプリングに取り付けます。プーリーの中心にネジを取り付けます。新しいスターターロープをスターターハウジングとスターターハンドルの穴に通します。ロープの端にしっかりと結び目を作ります。

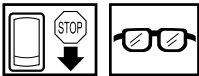
リターンスプリングの伸張

- スターターロープをプーリーの切欠部から引っ張り上げ、プーリーを時計方向に約2回転させます。

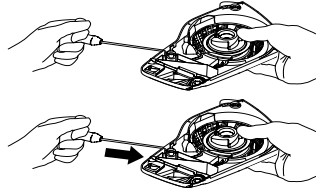
注意! スターターロープを完全に伸ばしたときに、スタータープーリーが確実に少なくともさらに半回転できるようにしておいてください。



破損したリターンスプリングの交換

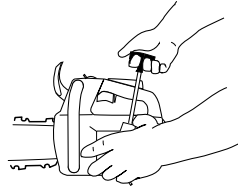


- スタータープーリーを持ち上げます。「切れたり擦り減ったりしたスターターロープの交換」を参照してください。リターンスプリングは、引っ張られた格好でスターターハウジング内に収まっていますので、注意してください。
- スターターからリターンスプリングを備えたカセットを取り外します。
- リターンスプリングに薄いオイルをさします。スターターにリターンスプリングを備えたカセットを取り付けます。スタータープーリーを取り付け、リターンスプリングを引き締めます。



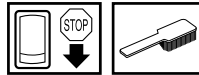
スターターの取付

- スターターを取り付けるには、まずスターターロープを引き出し、スターターをクランクケースの所定の位置に置き取り付けます。プーリーの中で爪がかむように、スターターロープをゆっくり放します。



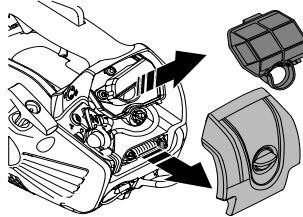
- スターターを固定しているネジを取り付け、締めます。

エアフィルター



下記のような問題の発生を防止するため、エアフィルターを定期的に清掃し、ホコリや汚れがたまらないようにしてください。

- キャブレターの故障
- 始動不良
- エンジン出力の減少
- エンジン部品の不要な摩耗
- 異常な燃料消費
- エアフィルターカバーを取り外し、エアフィルターを取り出します。再組み立て時は、エアフィルターとフィルターホルダーとの間に隙間ができないようにしてください。ブラシをかける、振るなどしてフィルターを清掃します。

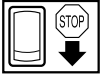


水と洗剤を使って洗うと、さらにきれいになります。

長期間使用したエアフィルターはどんなに洗っても完全にきれいにはなりません。定期的に新品のフィルターと交換してください。破損したエアフィルターは必ず交換してください。

メンテナンス

スパークプラグ

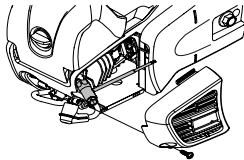


スパークプラグの状態は次の原因によって悪化します。

- 誤った混合燃料（オイル過多または間違ったオイルの使用）
- 汚れたエアフィルター

これらの原因により、スパークプラグの電極に付着物が生じ、結果として故障や始動不良を起こす可能性があります。

製品の出力が低い、始動困難、アイドリング中の回転不良などの場合、まず始めにスパークプラグを点検してください。スパークプラグが汚れている場合は、清掃し、電極間隔が0.75 mmになっているかどうかを確認します。スパークプラグは、運転約1か月間後、または必要に応じてそれよりも早く交換してください。

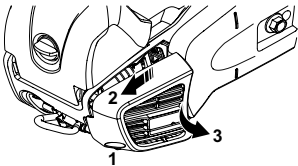


注意! スパークプラグは必ず推奨タイプのものを使用してください! 不適正なスパークプラグは、ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。スパークプラグが正しく装着されていることを確認します。

スパークプラグの点検では、マフラーガードを外す必要があります。以下を参照してください。

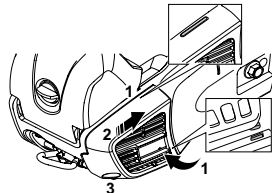
マフラーガードのはずし方

1. 固定ねじを緩めます（脱落防止ねじ）。
2. マフラーガードを後方にずらします。
3. 爪が外れて、マフラーガードが外れます。



マフラーガードの組み付け方

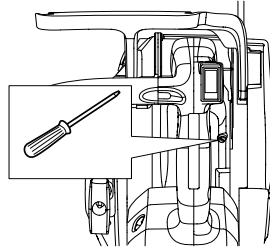
1. 上下の爪を穴にはめます。
2. マフラーガードを前方にずらします。
3. 固定ねじを締めます。



オイルポンプの調整



オイルポンプは調節可能です。ドライバーでネジを回転させながら調整します。時計方向にネジを回すとオイル流量は増加し、反時計方向に回すとオイル流量は減少します。

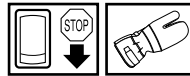


燃料を使い切る頃は、チェンオイルタンクはほとんど空になっています。チェンソーに給油するときは、チェンオイルを必ず補充するようにしてください。



警告! 調節する際は、必ず先にエンジンを切ってください。調整範囲は90°です。それ以上回すとオイルポンプ調整部が破損する場合がありますのでご注意ください。

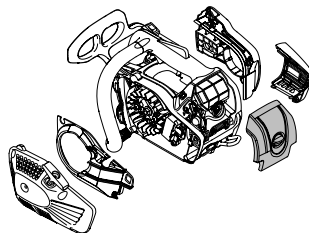
冷却システム



運転中の温度をできるだけ低く保つため、製品は冷却システムを装備しています。

冷却システムは次のものによって構成されています。

- 1 スターターの吸気口
- 2 エアガイドプレート
- 3 フライホイールのフィン
- 4 クラッチカバー



1週間に一度、あるいは過酷な条件での使用ならそれよりも多い頻度で、ブラシで冷却システムを清掃します。汚れた、あるいは詰まっている冷却システムは、製品をオーバーヒート状態にし、ピストンやシリンダーに損傷を与えることとなります。

メンテナンス

トラブルシューティング

始動時の不具合		
点検	考えられる原因	対応措置
燃料タンク	燃料の種類が間違っている。	間違った燃料を廃棄し、正しい燃料を使用します。
スパーク(放電しない)	スパークプラグが汚れている、もしくは湿っている	スパークプラグを清掃します。電極ギャップが正しいかどうか点検します。スパークプラグが正しく装着されていることを確認します。
	スパークプラグのギャップが正しくない。	正しいギャップについては、主要諸元を参照してください。 スパークプラグを締め直します。

エンジンはかかるが、すぐ止まってしまう。		
点検	考えられる原因	対応措置
燃料タンク	燃料の種類が間違っている。	間違った燃料を廃棄し、正しい燃料を使用します。
キャブレター	エンジンのアイドルリングが適切でない。	サービス代理店に連絡してください。
エアフィルター	エアフィルターが詰まっている	エアフィルターを清掃します。
燃料フィルター	燃料フィルターが詰まっている	燃料フィルターの交換

メンテナンス

メンテナンスのスケジュール

本機で実施すべきメンテナンスのリストは以下の通りです。ほとんどの項目は、メンテナンスの項目で説明されています。

毎日のメンテナンス	毎週のメンテナンス	毎月のメンテナンス
製品の外側を清掃します。	冷却システムを週毎にチェックします。	チェンブレーキのブレーキバンドに摩耗が進んでいないかどうか点検します。摩耗個所に 0.6 mm (0.024 インチ) 未満しか厚みが残っていない場合は交換してください。
スロットルトリガーのコンポーネントが正しく機能するかどうか点検します。(スロットルトリガーロックおよびスロットルトリガー)	スターター、スターターロープ、リターンスプリングを点検します。	クラッチハブ、クラッチドラム、およびクラッチスプリングの摩耗度を点検します。
チェンブレーキを清掃し、正しく動作するかどうか点検します。チェンキャッチャーに損傷がないことを確認し、必要に応じて交換します。	防振装置に損傷がないかどうか点検します。	スパークプラグを清掃します。電極ギャップが 0.75 mm あるかどうか点検します。
ガイドバーは毎日上下を入れ替え、均等に摩耗が進むようにしてください。ガイドバーの注油孔が詰まっていることを確認します。ガイドバーのレール溝を清掃します。	クラッチドラムベアリングに注油します。	キャブレターの外側を清掃します。
ガイドバーとチェンに十分な量のオイルが行き渡っているかどうか点検します。	ガイドバー縁のバリをヤスリで削り取ります。	燃料フィルターと燃料ホースを点検します。必要に応じて交換します。
ソーチェンのリベットやリンクにヒビが入っていないか、ソーチェンが硬くなっていないか、リベットとリンクが異常に摩耗していないかを点検します。必要に応じて交換します。	キャブレター室を清掃します。	燃料タンクを空にしてから内部を掃除します。
チェンの目立てをし、張り具合と状態を点検します。ドライブスプロケットの摩耗度を点検し、必要に応じて交換します。	エアフィルターを清掃します。必要に応じて交換します。	オイルタンクを空にしてから内部を掃除します。
スターターの吸気口を掃除します。		すべてのコードと接続部を点検します。
ナットおよびネジが確実に締められているかどうかを確認します。		
ストップスイッチが正しく機能していることを確認します。		
エンジン、タンク、燃料系から漏れが発生していないことを確認します。		
エアフィルターの状態を検査します。		
エンジンのアイドルリング中にソーチェンが回転しないことを確認します。		

主要諸元

主要諸元

	GZ2700T	GZ2800T
エンジン		
排気量、cm ³	27.0	27.0
シリンダー内径、mm	35	35
ストローク、mm	28	28
アイドル回転数、min ⁻¹	2900	2900
イグニションシステム		
スパークプラグ	NGK CMR6A	NGK CMR6A
電極ギャップ、mm	0.75	0.75
燃料および潤滑システム		
燃料タンク容量、L/cm ³	0.19/190	0.19/190
8,000 min ⁻¹ におけるオイルポンプ能力、cm ³ /min	3-9	3-9
オイルタンク容量、L/cm ³	0.17/170	0.17/170
オイルポンプの型式	調整式	調整式
重量		
バーチェン, および吊り下げフックを除く kg	2.6	2.6
等価振動レベル (3 軸合成値)、a_{veq}		
、m/s ²	4.3	4.9
チェン/ガイドバー		
標準のガイドバーの長さ、インチ/cm	10/25, 12/30	10/25, 12/30
ピッチ、インチ/mm	1/4 / 6,35	1/4 / 6,35
ドライブリンクの厚み、インチ/mm	0.050/1.3	0.050/1.3
ドライブスプロケットの型式/歯数	星型/8	星型/8
最大エンジン出力 133% におけるチェン速度、m/s	22.5	22.5

注記 1: 等価振動レベルは ISO 22867 に則し、さまざまな作動状態における振動レベルの時間加重エネルギーとして計算されます。報告データによれば、等価振動レベルの一般的な統計上のばらつき (標準偏差) は、1 m/s²。


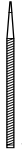

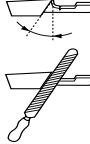

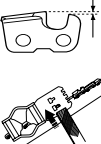
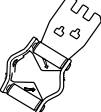

主要諸元

ガイドバーとチェーンの組み合わせ

以下のガイドバー、チェーンをGZ2700T, GZ2800T に使用することができます。

ガイドバー				チェーン	
長さ、インチ	ピッチ、インチ	溝幅、mm	種類	タイプ	長さ、ドライブリンク(数)
10	1/4	1.3	スプロケット カービング	25AP	60
12					68

チェーンの目立てとファイルゲージ

							
25 AP	インチ/mm 5/32" /4,0	85°	30°	10°	インチ/mm 0,025"/0,65	580687401	505698118

(注記2)

振動障害の防止

振動障害を防止するため、製品をお使いになる前に必ずお読みください。

■ 1日の作業時間について

疲労が重なるると注意力が低下し事故の原因となりますので、作業計画にはゆとりを持たせてください。

1日の作業時間は、機体または取扱説明書に表示の『周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値』により厚生労働省通達で次のように決められています。

① 10 m/s² より小さい場合は、1回の連続作業時間は10分以内、1日の作業時間は2時間以内としてください。

② 10 m/s² より大きい場合は、1回の連続作業時間は10分以内、1日の作業時間は次の式により算出した時間以内としてください。

$T=200 \div (a \times a)$ T: 1日の最大作業時間(時間)

a: 周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値(m/s²)

■ 使用前の点検・整備について

製造時の振動レベルを劣化させないため、作業を開始する前に必ず機体各部の点検・整備を行い異常がないことを確かめてください。

特に、次のような異常がある場合は、速やかに使用を中止し販売店または修理専門店にて整備してください。

- ① 振動が大きくなったなど異常な振動を感じたとき
- ② 防振ゴムのはがれ、劣化、破損、および固定部のゆるみ、破損
- ③ 防振スプリングの伸び、変形、破損、および固定部のゆるみ、破損
- ④ ハンドル(左手、右手)の変形、破損
- ⑤ ハンドル(左手、右手)取付部のゆるみ、破損
- ⑥ ソーチェーンのゆるみ、異常磨耗
- ⑦ カッタ(ソーチェーン)の切れ味不良
- ⑧ ガイドバーの異常磨耗、曲がり、先端スプロケットの回転不良(スプロケットノーズバー使用時)
- ⑨ ガイドバー締付けナットのゆるみ



修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は
まず、お買い上げの販売店へお申し出ください。

製品・技術・その他のお問い合わせ

ハスクバーナ・ゼノア株式会社



0570-084987

月～金/9:00～17:00(土日祝、弊社指定休業日は除く)

<http://www.zenoah.co.jp/>

ハスクバーナ・ゼノア株式会社

本社: 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9

(令和4年12月現在)

114035679 (E1/A2212) PRINTED IN JAPAN